

# カトリック 高松教区報

2006年7月2日(第112号)  
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会  
〒760-0074 高松市桜町1-8-9  
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484

Email  
教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp  
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp  
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp  
http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



## 協力宣教司牧体制を支えよう

高松教区長 溝部 脩

「教区の一歩を目指して」というモットーの下に、わたしの司教着座が行われてから、はや二年経過しました。何ができたか、何ができなかったか、戸惑うことばかりです。組織化ばかりに力を使

きすぎるとの批判も受けましたし、具体的に何の結論も出さずに時の過ぎ行くままに流されているとの批判もいただきました。いずれも当を得ている論評だけに、耳を傾けることにやぶさか

外教的、内的両論の調和ある改革こそ高松教区を刷新する大きな要因となります。このために高松教区は協力宣教司牧体制に踏み切りま

### 知恵を出し合い新しい教区作りを



6月3日こどもの集いにて

出した。これしか一致を生み出す方法がないとは言いませんが、これは、今の高松教区にとって不可欠の方法だと言えます。多くの人が知恵を出し合って、どんな教会を望むのか、どんな教区をつくりたいのかを真剣に考える体制だからです。形が決まっていなくても、多くの戸惑いがあるのでしよう。しかし、それだからこ

そ何かを作り上げていく喜びがあるものなのです。前向きに、この体制を受け止め、是非司教とそれを推進する司祭たちに協力してくださるよう、この紙面を借りてお願いします。

### はばたき

組織だつて何かをする場合、規約を作つて、体制を整えて活動に入っていく。然し、そうでない場合もある。そしてその方が、地に着いた活動になる場合もある。故山下悟神父様の「家庭と召命の日」の行事は、もう三十数年も前に師が始められた一泊二日の行事である。しかし、これが恒例となり、師が亡くなられてもう八年にもなるが、教区の大切な行事のひとつ(昨年から「こどもの集い」として引き継がれている。溝部司教様が「私が来たからといって教区が良くなるものではない。私一人に任せても何も変わらない。」と言われたが、私たちのアイデアが発端となつて教区全体の発展に寄与することは必ずあると思う。かつてNICEの時に、各小教区の信者が頭を寄せ合つて考え合つたように、教区のために何かを考えないと、溝部司教様任在の間には何も起こらない「ハメ」になるのではないか。こどもの集いは今年も去る六月三・四日新居浜のマリア幼稚園で成功裏に終了した。



「現代社会にどのようになメツセージを与え続けることができ

ない時代に入っています。真剣に考えないといけません。ただ行事をすれば良いというようなものではありません。本当に深く、それを通して現代社会にどのようになメツセージを与え続けることができ

ない時代に入っています。真剣に考えないといけません。ただ行事をすれば良いというようなものではありません。本当に深く、それを通して現代社会にどのようになメツセージを与え続けることができ

# 歓迎!! 教皇大使高松教区へ

## 牧者である教皇大使

### 司牧に大きな喜びを感じて

教区事務所 Srメリー・ギリス

教皇大使アルベルト・ボツターリ・デ・カステッロ大司教様を高松教区に  
お迎えした折、通訳の任務のため、た  
くさんのグループとの会合に出席でき  
私にとって恵みの時でした。各グルー  
プは自己紹介が始まったのですが、教  
皇大使も自ら自己紹介をなさいました。  
どれほど『牧者』でありたいのかを、  
その話から痛感しました。叙階後小教  
区の司牧を通して、若者とかかわり  
を特に大切にしたこと、宣教師として  
カメルーンで過ごした一二年間につい  
て、懐かしくお話をなされたことなど  
聞いて、本当に神の国の建設のために  
人に仕える方だと感じました。それぞ  
れの集まりでも、同じように感じたこ  
とでした。誠心誠意お聴きになり、誠  
実にお応えになったからです。司牧に  
大きな喜びを感じていらつしやった大  
使の今の任務は、大きな犠牲に立った  
教会全体への素晴らしいご奉仕だとい  
ふの滞在を通して痛感しました。

## 桜町・番町合同で 教皇大使を歓迎

番町教会 河合まゆみ

先月五月七日(日)に、教皇大使  
アルベルト・ボツターリ・デ・カス  
テッロ大司教様を迎えて、桜町教会  
において、番町教会と合同のミサが  
行われました。司教様をはじめ、教  
区司祭を含めた十人ぐらゐの司祭と、  
数多くの信者たちが一緒にミサに与  
りました。

溝部司教様は、お説教の中でこの  
日朗読された使徒行録とヨハネ福音  
書についてお話しされ、聖霊降臨のお  
祝い日までの、聖書の読みかたにつ  
いて説明してくださいました。中で



歓迎パーティーでのひとこま  
中央に教皇大使

も心に残つ  
たことは  
「教会と  
いうのは、  
イエス様  
を肉眼で  
見ない時  
代に肉眼  
で見ると

となく教会に信仰を与え、イエス様  
を見るという仕事をするのは聖霊で  
ある」という言葉でした。ばらばら  
であった教会が聖霊を通して一つに  
まとめられ、外的な事と内的な事、  
組織と聖性、この二つが調和して存  
在する教会という事が教会の希望で  
あるとも話されました。

ミサの終わりに、教皇大使からお  
話があり、その話の中で、「直接小  
教区の人々に会って、今この教区で  
起きている事を聞きたいので、こう  
して訪問したのです。この機会にい  
ろいろな場所で数多くの人に接して  
話を聞き、その中で神様の働きを目  
で見て感じ、理解をしていきたいと  
思っている」と話され、最後に、「将  
来多くの人々に召し出しの呼びかけ  
があることを切に願っている」と話  
されました。

ミサの後、教皇大使を歓迎する昼  
食会が開かれ、一人ひとりの信者た  
ちに挨拶され、和やかに会話される  
姿がとても心暖かく感じられました。  
東京から、わざわざ私たち信徒の  
ため、足を運ばれ、多くの人々と接  
し、いろいろな場所を訪問された大  
使に深い尊敬と感謝の念を抱いてい  
ます。

\*五月七日桜町教会で教皇大使が  
された挨拶は高松教区ホームペー  
ジに掲載しています。

## 学生に励ましのメッセージ 聖カタリナ大学「母を讃える日」

聖カタリナ大学 Sr佐々木裕子

二〇〇六年五月一〇日(水)一〇時  
半より、毎年恒例の「母を讃える日」  
の行事が、聖カタリナホールで行わ  
れました。パイプオルガン演奏を聴  
きつつ、聖母行列・献花が行われ、  
聖母マリア様を讃える祈りを捧げま  
した。この日はちょうど教皇大使ア  
ルベルト・ボツターリ・デ・カステッ  
ロ大司教様をお迎えしており、全学  
生に向けて直接メッセージをいただ  
くことができました。ルカ福音書の  
主イエス・キリストの姿を通して、  
学生たちが近い将来社会人となった  
時、弱い立場にある人々の支えとな  
り、地域そして社会に貢献していく  
ことができるよう、大きな励ましを  
くださいました。

ここに学生たちの感想を紹介しま  
しょう。



聖カタリナ大学三年 竹内 瑛  
アルベルト・ボツターリ・デ・カ  
ステッロ大司教様のお話を聞いて、  
キリスト教の愛の精神は社会福祉事  
業という実践の場で生かされていく  
ものだと感じました。社会福祉の視



聖母台上退場  
後方に聖母像、大司教様、大司教様、大司教様、大司教様

点から学ぶことの大切さを教えてくださったので、キリスト教を学ぶことは、僕たちにとつ

てもとても重要なことだと再認識しました。また、「マリア様に祈ることを忘れないでください。マリア様は祈っている人を見守ってください。その人のもとに助けに来てくださるから」という言葉は驚きでした。聖母マリア様はすべての人を等しく愛して下さっている方だということを知りました。そして大司教様が強調しておられた「祈れば願いが通じる」というのは、キリストを知っている人の強さなのだと思います。



聖カタリナ大学三年 宮本貴恵  
教皇大使という、なかなかお会いできない方のお話を聞くことができ、よかったです。聖カタリナ大学でキリスト教、そして福祉に関する知識および技術を身につけ、社会に貢献できるような人間になりた

いと思います。日頃の生活態度も気をつけようと思います。



聖カタリナ大学三年 森 雅恵  
教皇大使アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ大司教様のメッセージの中で、私たちが過ごしている大学生生活の中で他の人との関わりを持つことが大切であるということを感じた。まず、人それぞれの感じ方や考え方が違うことを理解していくことが大切であり、それをどう受け止める、いかに理解しようとしていくかという心の動きが大事なのだとわかった。日々の出来事の中のどんな些細なことを見逃さないようにしようと思った。

## 会議報告

### 生涯養成委員会の活動本格化・召命促進のために「召命の祈り」を作成

～宣教司牧評議会～

第二回宣教司牧評議会役員会が五月一二日に開催された。主な討議内容は次の通り。

- 1 生涯養成委員会のスタッフが整った。Srギリス(委員長)、岡本哲男師、Srコンチータ、西川伝道師、Br八木、太田肇子氏の六名である。
- 2 生涯養成委員会では、第一回キリスト教講座の終了時行ったアンケート調査を基に、今後の方針を検討した。
- 3 「カトリック教会の教え」を基にしたキリスト教講座を設けるよう生涯養成委員会に対して要望した。高知地区は、協力宣教司牧チームで「教会論」の講座を企画する。
- 4 「教区民の日」の開催日案が、次のとおり各地区より出された。愛媛(九・一七)、香川(二〇・八)、徳島(二〇・一五)、高知(二〇・二九)
- 5 召命促進のために、「召命の祈り」を作成し、継続的に祈る。さらに日本の小神学校と連携し、召し出しを考える機会を増やしたい。七月一六日にサレジオ会神学生を招き、ミサの中で男声合唱を披露する。

### 「聖体の年」の教書案を検討

～司祭評議会～

第四回司祭評議会は六月六日に開催され、主に次のことが審議された。

- 1 子どもの集いが六月三、四日に、六〇名の参加を得て新居浜で行われ、大盛況であった旨報告された。
- 2 二〇〇五年度決算報告がなされ、特に司祭会計は三年後底をつくことが報告され、司祭の生活をどのように支えるのか重大かつ緊急な課題として提示された。
- 3 今年六月を持って帰国されるレドンド神父様の後任として、引退しておられる下田神父様が、暫定的に新居浜教会主任司祭として着任する。
- 4 聖体の祭日に発表される「聖体の年」の教書案が検討された。信仰生活の中心である聖体について、全信徒が読み、学ぶことが求められる。
- 5 「聖体の年」と定められた今年、独自の典礼を採用している新求道共同体のこともあり、典礼に関して
  - ①平和の挨拶について
  - ②土曜日夜のミサについて
 議論された。難しい問題で、結論を出す前に、もう少し理解を深めるために継続審議となった。

# 日本各地で あつちこつちミサ

## 四国でも二〇名参加

高知県 日本晋吾

今回の集まりは、五月二〇〜二一日松山教会で開催しましたが、四国四県から青年が三〇名程、また東京からも一名参加して頂き、多くの仲間と一緒に食事、祈り、分かち合いなど恵みあふれる時間だったと思います。ただそれまでの準備への道りでは僕自身、就職活動で一回目の準備会から参加できなかったり、不安な気持ちでいっぱいでした。けれ



岡田大司教・溝部司教とともに

ど、それぞれのスタッフが積極的に準備の役割に名乗りでくれ、きつといい集まりになるのだろうという嬉しさも生まれていました。

でもやはり当日になると性格上、スタッフとしてのプレッシャーからカテケージスやあつちこつちミサをゆつくり聞くことが出来なかったのですが、ミサ終了後に四国外でのあつちこつちミサ開催地の仲間から連絡があり、改めて場所は違ったけど、同じ時間、ミサに与っていたのだなという実感がわき、今回参加出来てよかったです。

最後にこの場をかりて、カテケージスやあつちこつちミサを支えて下さった多くの方々に御礼申しあげます。

## 生き生きとした子ども達に 教会の明るい未来を実感

〜子どもの集い〜

松山教会 渡部 恵

六月三、四日、新居浜市の聖マリア幼稚園を会場に、標記の集いが開催された。四国四県から、小学生五〇名、中学生九名、高校生五名、大人三六名の参加者を得、「ミサ」をテーマに研修やスポーツでの交流が行われた。ここでは、研修について



全員集合!!

報告した。ミサの意義を理解し、全員が主体的に関われるミサにあずかれましたらと

いう願いを込めて研修が進められた。Br八木の、「ミサとは食卓を囲み、皆が同じ食事をし、命あるものの犠牲の上に成り立つ食事に感謝することではないか」との問いかけは、子どもたちの心に深く沁み、考える種が撒かれたように思った。メインテーマのミサ準備では、聖歌演奏・祈願文作り・侍者練習・朗読劇作り・祭壇作りの五班に分かれ準備を行った。短時間の中で、自分の選んだ分野がミサの中で果たしている役割を理解し、楽しみながら取り組み、聖霊降臨の祝日にふさわしいミサとなった。ミサ準備での旺盛なチャレンジ精神、すぐに友人を作る柔軟な心など、神様が子どもだけにお与えになったお恵みなのかもしれない。二日間どの場面にも、子どもたちの生き生きとした姿を見ることができ、教会の明るい未来が予感できた。最後に、この集いを支えてくださっ

## 各地区だより



### オブレイト会創立者の カリスマにふれて

徳島教会

マヘル・ウィリアム主任神父

オブレイト会の会則の中に、次のようなことが書かれています。  
「生涯養成とは、人間の全面的成長を助けます。私たちの霊的生活とその内面的能力を更に改め、感情と愛情の面での円熟を深めさせ個々の生き方を一層満ちたりたものとしてくれるのです。」

このことを正に体験すべくフランスでの生涯養成講座に、私は、叙階四〇周年を迎える年に参加できることを大変うれしく思いました。

このセミナーには九ヶ国から二人のオブレイト会の神父とブラザーが集まりました。三ヶ月間一緒に暮らし共に勉強、祈りで共同生活が出来たことはとても良い経験になりました。何よりも創立者ウージェーン・ド・マズノが

た多くの方々、特に新居浜教会の信徒の皆様にご心よりお礼を述べたいと思います。



セミナー参加者

生まれ育ち、最初に司祭として生活した場所とオブレイト会を始めた場所を実際に見て体験

できたことは大きな恵みとなり、ひとしお感慨深いものでした。そして、教会についての勉強、宣教活動、一ヶ月の黙想会などを皆と共にできたことは、私の為には必要なことでした。

ルルドでの三日間も有意義な時間を持てました。オブレイト会は、ルルドで青年の集いの担当をしており八人の司祭がいるところで泊まりました。ベルナデッタの生まれた家、育った小さな部屋でルルドの祈りの雰囲気を感じることができ、マリア様が現れた場所、ミサをたてることができました。これは素晴らしい経験です。ルルドの中は本当に静かな祈りの空間です。そして、ルルドで水浴した時には、徳島の病気の人のために祈りました。その後一ヶ月間、イグナチオの霊性の方法での黙想会は、時間が過ぎるのがとても早く感じました。この黙想会も大きな恵みでした。

この生涯養成セミナーから、私は司

祭としての霊的生活とその内面能力を更新し、宣教使命との統一を実現するべき必要性を深く感じる事ができました。この三ヶ月間のセミナーでの経験を糧に、今後も皆さんと共に考え、皆さんと共に信仰を育てることができるよう日々努力していきたいと思えます。溝部司教様も、生涯養成に力を入れていらっしゃいます。私達は、死ぬまで成長できるはずですよ。

私は、皆さんの経験を与えて下さる神に感謝し、皆さんのためにお祈りさせて頂きます。

### 殉教者をしのび 五島殉教地巡礼と教会巡り

中島町教会 山崎佳子

「日本の殉教者を列福する運動」に便乗して、私たちは、「第六回」殉教者を偲ぶ



大曾教会

五島殉教地巡礼と教会巡りをすため、五月二日五島列島をめざして出発しました。



頭ヶ島教会

どの教会に行っても花壇には美しい花が咲きほこり、生々と祭壇に飾られているのを見るにつけ、生きてい

る教会だと実感しました。「よく来たネ」と天主堂が待っていて下さるような教会建築に、昔の人の意気込みを感じ、歴史ある教会をこれからもずっと守っていくことの大変さや、地元の人達の熱い思いを感じました。今の私達が学んでいかねばならないことが、沢山あることを再認識できた巡礼の旅だったと思います。中島町教会から、何か発信できればいいなと思いつつながら、帰途に着きました。

五月二一日付けのカトリック新聞に、列福「可」の記事が出ていましたが、小教区単位で殉教者について積極的に学んでいくことは、一人ひとりの信仰を強め、また、これからの日本の教会の在り方を考える、いいチャンスにもなると思います。

### キリストの現存を体験し 派遣される教会を目指して ASIPPA (アシパ)

鳴門教会 三原千栄子

鳴門教会では、以前より西川康廣先生のご指導により、毎月第二主日のミサの後、聖書の勉強会を行っています。今春より、ASIPPA (アシパ) による、聖書の研究、キリストの現存のうちに、祈りを分かち合う集いを始めるようになりました。

アシパとは、アジアの人々のための聖書アプローチを七つのステップによって、常に祈りの雰囲気の中に、仲間とともに、キリストの現存を体験してゆくものです。

前回は、西川先生より、そのオリエンテーションをしていただきました。これから聖書の中に在る宝 (イエスの出会い) を、グループの各自がみつけ、みことばを皆と分かち合います。

勉強会のようす



こうして、私たちが祈りとして、祭壇より派遣される教会になつてゆくことが望まれます。

## ロザリオの祈りに 勇気づけられて

松山教会 関ちず子

五月は、「子どもの日・母の日」が祝われています。松山教会でも教会をあげてお祝いします。

去る五月一四日の日に「母の日・子どもの日」のためのミサが行われました。ミサの中で、母への感謝と、子どもの健やかな成長を願うための祈りを捧げました。この日のために用意された手作りのカーネーションを受け取った母親たちと、ミサに与った女性たちはとても嬉しそうでした。

五月と一〇月は、「家庭の月とロザリオの月」にあたります。毎週一回ブロック別に、希望者のお宅に神父様を迎えて集まり、皆で意向を立ててロザリオ一環を唱えます。またロザリオの後でのお話は、とてもためになります。岡本神父様より「光の神秘」が加えられた理由として、故ヨハネ・パウロ二世の信徒・教会を思う心について教えていただきました。

さらにミケランジェロの「最後の審判」の絵に描かれた「天使が煉獄の魂に差し伸べている縄に見えたもの」は、実に修復されたものを見ると「ロザリオ」でした。これには驚きました。

最近エキメニズム運動が盛んになったこともあって、ロザリオの祈りが忘れがちですが、「私たちも母を通していろいろとお願ひすることもあるでしょう。」との神父様の言葉には、重みを感じました。

私たちの周りで亡くなられた方々や、病気で苦しんでいる人々など、すべての人々のために、ロザリオで祈り黙想するとき、まっすぐに神様に届くような気がしてなりません。ロザリオの集会に参加する度に、勇気づけられます。



### 子供たちに

### 教えてもらっています

西条聖マリア土曜学校

西条教会 山田てるみ

西条教会の土曜学校は、今年で九年目を迎えました。最初は、わずか数人からのスタートだったそうですが、現在は小学生一二名、中学生一名、年長児三名と賑やかに過しています。

毎年恒例の春の遠足、夏の川遊びは、子供たちがとても楽しみにしている行事の一つです。またこれも西条教会では毎年恒例になっている、クリスマス



食前の祈り

の集いというものがあります。信者でない方々のために行なっているのですが、そ

の中で、クリスマスに関係のある話や、みんなで朗読したり、歌を歌ったりして、クリスマスを盛り上げてくれます。昨年、初めて馬小屋作成にも挑戦しました。

実際、この土曜学校には、信者でない子供たちの方が多のですが、よく参加しているなあと思います。遊びとおやつにつられて・・・という感じではありますが、それでも歌ったり祈ったり聖書の話しを聞いたりしていますから。

実は、中学生以上を対象にしたり、年長児さんを受け入れたりしたのは、今年度が初めての試みでした。スタッフも少なく経験も少ない、不安だらけですが、試行錯誤しながら二ヶ月が過ぎました。楽しそうにはしゃいでいる子供たちの笑顔が救いです。これから、神様のお恵みをいっぱいいただいて子供たちと一緒に学んでいきたいと思ひます。

## 手打ちうどんを囲んで交流 一七〇名が三本松ルルド祭を祝う

桜町教会 長谷川聖

五月二八日三本松教会で恒例のルルド祭が行われた。

ロザリオ一環を参加者全員が唱えた後、溝部司教様によりミサが執り行われた。説教では話題作「ダ・ビンチ・コード」等を取り上げて、現代の女性の価値についてわかりやすく話された。

ミサ後これまた恒例のうどんパーティーが催され、特製手打ちうどん(釜揚げ)などをいただき歓談した。ミサ中には雨が降るなど、あいにくの空模様であったがおおいにぎわった。

毎年素晴らしい集いを準備してくださる三本松教会の皆様に感謝。



ルルド前の祭壇で  
ミサが捧げられた

### 善通寺教会あれこれ

## 名物。パエリアはいかが



善通寺教会 多田繁夫

こんにちは、善通寺教会です。皆さん、善通寺教会をご存知ですか。善通寺市は、市民の誇り弘法大師の出身地であり、

今年生誕二〇〇年祭で賑わっております。金毘羅さんで有名な琴平町も善通寺教会のエリアとなっております。

市にはプロテスタント系の大学があり、また自衛隊の駐屯地でもあります。仏教、神道の地をエリアに、善通寺教会は信徒数約七〇人の小さな群れです。

善通寺教会の名物をお教えします。

名物、それは年に数回ミサ後のご馳走パエリアです。信徒総会、ご復活等の折々に善通寺教会のKシェフが腕を振るいます。五、六年前、教会の納涼の集いに志度から宣教家族に来てもらいパエリアを料理してもらった時、Kシェフは料理法を覚え、工夫を重ね、今日の善通寺教会のパエリアが出来ました。パエリアは主任司祭I神父さまの国

の料理。教会の行事等の折り、神父さまよりのリクエストがあります。皆でワイワイ楽しくKシェフ指導の下、時にはスペイン出身のN夫人のチェックが入ったりしながら、楽しく作り、楽しく会食、至福のひと時を過ごします。

善通寺教会は、食べてばかりではありません。月に一度、西川先生をお招きしてミサの後、勉強会をしています。勉強会も六、七年前から始まり、今は「カトリック教会のカテキズム」をテキストに学んでいます。

善通寺へお越しの際には、是非お立ち寄りください。主日のミサは午前九時からです。ミサの後には、司祭館でコーヒーを楽しんでいます。運がよければパエリアにめぐり合えるかも知れませんよ。

聖母幼稚園の園舎の一部を利用しての善通寺教会。聖堂建設を目標にがんばっています。



善通寺教会のパエリア

### 教区から二名が受章

#### 瑞宝双光章

学校法人聖母学園理事長

池田義高様

学校法人聖母学園理事長の池田義高師が、永年に亘り幼稚園教育に貢献された功績により、



春の叙勲で「瑞宝双光章」受章の荣誉に輝きました。師は高松聖母幼稚園園長を現在まで三六年の永きに亘って勤められ、また、この間香川県私立幼稚園連盟理事長、全日本私立幼稚園連合会常任理事、高松教区カトリック幼稚園連盟理事長、日本カトリック幼稚園連盟委員長の要職を歴任され、幼児教育の充実と発展に貢献してこられました。六月

一〇日には、祝賀会を開催し、関係者約一〇〇名が出席して受章の荣誉をお祝いしました。(学校法人聖母学園事務長 多田 洋)

## 喜びの春の叙勲

### 旭日双光章を受けて

番町教会 杉本憲俊

この度はからずも、平成一八年春の叙勲で旭日双光章授受の栄に浴し、身に余る光栄と感激いたしております。

一生に二度もこのような荣誉に属することが出来ました(平成一一年建設大臣・平成一三年黄綬・平成一八年叙勲)。これからも偏に諸先輩方を始め教会の皆様方のご指導とご支援の賜と衷心より感謝申し上げる次第です。



今後教会の発展と、地域社会にお返しすべく昭和三九年より続けております青少年育成のボランティア活動のお手伝いを、健康の許す限り続けて参る所存であります。

これからは、この章を一つの糧として微力ではありますが初心にかえり、皆様のさらなるご指導を頂き、頑張っていく覚悟でございますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 映画「Nagasaki 1945 アンゼラスの鐘」上映のお知らせ

対立や紛争が絶えない現代世界ですが、今年高松教区は平和旬間に因んで平和の大切さを伝える映画を上映することにしました。昨年作られたアニメの映画で、原爆の聖フランシスコ病院で勤務していた秋月辰一郎先生とその病院の患者の話です。戦争のその悲惨な状況の中でもお互いに助け合う姿はとても美しく、その姿こそは私たちに平和の尊さを伝えるものです。多くの方が鑑賞して下さいますように願っています。

上映日時： 近日中に決定します。決定次第、高松教区ホームページに掲載します。  
場 所： 香川県県民ホール (アクトホール)

入場料金ほか詳細についても高松教区ホームページに掲載します。

高松教区生涯養成委員会では、キリスト教講座を計画しています。詳細は高松教区ホームページに掲載していますのでご覧ください。1人でも多くの方が参加し神様からの恵みを受けてください。

高松教区生涯養成委員会

お知らせコーナー



## 投稿記事募集

【字 数】原稿は300字以内 (写真歓迎)

【内 容】記事の内容は自由、ただし中傷・誹謗はご遠慮下さい。

～その他募集要領は高松教区報109号 (2006年1月1日) に記載のとおり～

【投稿先】メール：tk-koho@mxj.netwave.or.jp

郵 便：〒760-0074 高松市桜町1丁目8-9

カトリック高松司教区広報担当 宛  
(Tel.087-831-6659)

F A X : 087-833-1484

## 司教日程

7月4日 (火) 札幌教区司祭研修会

7月6日 (木) 常任司教委員会

7月7日～9日 (金～日)

東京カトリック神学院集中講義

7月11日 (火) 司祭評議会

7月14日 (金) 宣教司牧評議会

7月22日～23日 (土～日)

徳島ファミリーデー

7月26日～27日 (水～木)

日本カトリック幼稚園教職員研修全国大会 (高松)

8月5日 (土) 会計監査会議

8月6日 (日) 広島平和行進

8月8日～14日 (火～月)

聖ドミニコ女子修道会黙想会 (北条)

8月12日 (土) 「アンゼラスの鐘」上映鑑賞

8月21日～26日 (月～土)

休暇 (個人黙想)

8月27日 (日) 婦人研修会 (大分教区)

8月28日 (月) 沖縄カトリック学園研修会

8月31日 (木) 諸宗教対話シンポジウム (高松)

## 編集後記

司教様は「・・・について話させて下さい」と丁寧に言葉を始められます。そして、私達も謙虚な気持ちで耳を傾けます。また、司教様は客が帰る時一人一人を戸口まで送られます。三階にいる時は一階まで、時には客を飛行場までお出迎え、お見送りされます。

これらのことは、どれだけ相手に驚きと喜びとを与えているでしょうか。あの過密なスケジュールの中で執筆をしながら、接待の心遣いをして下さいます。

丁度、肺炎で高熱を出して、寝ている子供には、名医と良薬がないと命が危ないように神様は高松教区に名医を送ってくださいました。そして、良薬の処方箋を我が教区報に書き続けて下さっています。良薬を飲んで、元気になった子供は働きたくなります。

神様のために、喜んで。

(広報委員 住吉才子)

